一 指導員・管理者用テキスト 一

<新旧対照表> 第5版 令和7年4月30日

【補足事項】 ※「旧版」から「新版」への文章の修正・追加・削除部分は、下線部を参照してください。 ※誤字・脱字および奥付等の軽微な修正は割愛します。

(旧)	反)第4	版(令和 6 年 6 月 14 日) No.235620	(新別	页) 第5点	反(令和7年4月30日) No. 236520
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
表紙	<u>向</u> が タイトル	(赤枠を削除) (赤枠を削除) (令和3年 製場における熱中症予防基本対策契制対応) 新版 建設業等における (令和3年 製場における熱中症予防 (本知3年 製場における熱中症予防 (会和3年 製造・管理者用デキストー)	貝 表紙	国 か	新版 建設業等における 熱中症の予防 - 指導員・管理者用テキストー
10	図暑くの調応中発カム 1-1 は時温反熱のメズ	(赤枠を修正)	10	図 暑 く の 調 応 中 発 カム の 報 な な な な な な な な エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ	編 熱 ぱく 露 体温上昇 反応 発 汗 反 応 発 汗 反 応 発 汗 反 応 解けいれん 軽 症 (I 度)************************************
12	下から 9 行目	以上の症状がなくても、本人が体調の異変 を訴えたら、素人判断せずに速やかに作業を 中止して救急車を呼ぶのが望ましいと言えま す。 (右記の下線部を追加)	12	下から 9 行目	以上の症状がなくても、本人が体調の異変を訴えたら、素人判断せずに速やかに作業を中止して <u>身体を冷やし、</u> 救急車を呼ぶのが望ましいと言えます。

(旧)	(旧版) 第4版(令和6年6月14日) No.235620			(新版) 第5版(令和7年4月30日) No. 236520		
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容	
13	上から	(4) 体重が作業前から1.5%を超えて減少	13	上から	(4) 体重が作業前から1.5%を超えて減少	
	9 行目	した場合		9 行目	した場合 (尿の色を確認する)	
		(右記の下線部を追加)				
15	上から	過去10年間 (2014~2023年) の職場での熱	15	上から	過去10年間 (2015~2024年) の職場での熱	
	2 行目	中症による死亡者数は、毎年20~30人で推移		2 行目	中症による死亡者数は、毎年20~30人で推移	
		しています。			しています。	
		また、死傷者数においては、2018年に1,178			熱中症による死傷者数は、令和6年(2024	
		人と最多となり、それまでも400~500人台で			年)に1,195人と最多になりました。うち死亡	
		推移しています。それ以降も900人前後で推			者数は、30人となっています。	
		移しています。				
		熱中症による死傷者数は、令和5年(2023				
		年)に1,106人となりました。うち死亡者数は、				
		31人となっています。				
		(右記に変更)				
15	図1-2	(赤枠を修正)	15	図1-2		
	職場にお	1,400		職場にお	1.400	
	ける熱中	1, 200 1, 178 45 45 1, 106 40 1, 100 959 35		ける熱中	1, 200 1, 178 1, 195 45 1, 196 46 1,	
	症による	823 827 30 FC 128 800 828 800 828 800 828 800 800 800 8		症による	見 800	
	死傷者数	£ 600 422 544 15		死傷者数	\$\hat{\delta} \text{462} \text{544} \text{15}	
	(2014	200		(2015	200	
	~2023	12 22 12 12 23 24 25 25 20 30 31 0 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2022年 元十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二		~2024	0 2015年 2016年 2017年 2018年 2018年 2020年 2021年 2022年 2023年 2023年 2024年 2022年 2023年 202	
	年)	図1-2 職場における熱中症による死傷者数(2014~2023年)		年)	図1-2 職場における熱中症による死傷者数(2015~2024年)	
16	図1-3	(赤枠を修正)	16	図1-3		
	熱中症に			熱中症に	60	
	よる死亡	54		よる死亡	52 50	
	災害の	50 -		災害の	40	
	業種別発	40 死 亡 30		業種別発	死 亡 ₃₀ 数	
	生状況	死 亡者 30 — 数 入 20 — 18 — 18 — ——————————————————————————		生状況	<u>16</u>	
	(2019	10 5 6 7		(2020	9 8 10 6	
	~2023	O 建設業 製造業 運送業 警備業 商業 清掃・農業 林業 その他		~2024	0 建設業 製造業 運送業 警備業 商業 清掃・ 農業 林業 その他 と畜業	
	年計)	と畜業		年計)	図1_2 熱山庁にトェ巫士巛宇の	
		図 1 - 3 熱中症による死亡災害の 業種別発生状況(2019 ~ 2023 年計)			図1-3 熱中症による死亡災害の 業種別発生状況(2020 ~ 2024 年計)	

(旧)	版)第4	版(令和 6 年 6 月 14 日) No.235620	(新牌	反)第5点	反(令和7年4月30日) No. 236520
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
16	図1-4	(赤枠を修正)	16	図1-4	
	熱中症に			熱中症に	
	よる死亡	70 63		よる死亡	70
	災害の	50		災害の	55
	月別発生	死40		月別発生	死40
	状況	死 40 七者 数 30 入		状況	死40 亡者 数30 (人)
	(2019	12		(2020	20 11
	~2023	7 2 1		~2024	5 0
	年計)	enth of 18 of of July		年計)	SHUM ON IN ON ON TOUR
		図1-4 熱中症による死亡災害の			図1-4 熱中症による死亡災害の
		月別発生状況(2019 ~ 2023 年計)			月別発生状況(2020 ~ 2024 年計)
16	図1-5	(赤枠を修正)	16	図1-5	
	熱中症に	20 10		熱中症に	20 19
	よる死亡	15		よる死亡	17 17 17
	災害の時	を 12 12 13 13 13		災害の時	で で で で で は の 10 10 11 9 10 10 11 9 10 10 10 10 10 11 10 10 10 10 10 10 10
	間別発生	<u>\$</u>		間別発生	<u>\$</u>
	状況	0 9時会 10時会 11時会 12時会 13時会 14時会 15時会 16時会 17時会 18時会 以前		状況	0 9時会 10時会 11時会 12時会 13時会 14時会 15時会 16時会 17時会 18時会 以前
	(2019	図1-5 熱中症による死亡災害の時間別発生状況		(2020	図1-5 熱中症による死亡災害の時間別発生状況
	~2023	(2019 ~ 2023 年計)		~2024	(2020 ~ 2024 年計)
	年計)			年計)	
29	上から	たはナトリウム40~80mg/100mℓのスポー	29	上から	たはナトリウム40~80mg/100mℓのスポー
	1 行目	ツドリンク・経口補水液等を、20~30分ごと		1 行目	ツドリンク・経口補水液等を、20~30分ごと
		<u>に</u> コップ1~2杯程度 <u>は</u> 摂取することが望ま			を目安にコップ1~2杯程度 <u>、こまめに</u> 摂取
		しいです。			することが望ましいです。
20	L #\ ?	(下線部を修正)	20	LAS	
29	上から	塩分を含まない飲料を摂取する時は、同時においた。	29	上から	塩分を含まない飲料を摂取する時は、同時においます。
	11 行目	に塩分も摂取するように心がけることが大切		11 行目	に塩分も摂取するように心がけることが大切
		です(塩、梅干し、熱中飴等)。作業中はのどが乾くのな感じなくては、20~20分でとにフ			です(塩、梅干し、熱中飴等)。作業中はのど
		が乾くのを感じなくても、20~30分ごと <u>に</u> ス			が乾くのを感じなくても、20~30分ごと <u>を目</u>
		ポーツドリンク・経口補水液などを <u>摂取</u> する			安にスポーツドリンク・経口補水液などを <u>こ</u>
		ことが必要です。			<u>まめに摂取</u> することが必要です。
]	(下線部を修正)			

(旧)	版)第4	版(令和 6 年 6 月 14 日) No.235620	(新版) 第5版(令和7年4月30日) No. 236520		
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
29	イラスト	(赤枠を修正)	29	イラスト	
36	イラスト	(赤枠を修正)	36	イラスト	
46	図2-2 安 サ に 中 活動	(赤枠を修正) 1 7 複楽時の 確認・報告 熱中症予防 (健康YY) (健康YY) (大業所長 の巡視 (作業所長 の巡視 (作業所長 の巡視 (作業所長 の巡視 (作業所長 の巡視 (作業所長 の巡視 (作業の) (記述の) (記述の	46	図 2 - 2 - 2 - 2 - 4 - 4 - 4 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5	7 検薬時の 安全朝礼 安全 サイング 2 (検索 N **) (機像 N **) (人物 N **) (人
49	下から 2 行目	⇒熱中症の警戒に至らないためには、熱中症 の発症に備えて、作業所で緊急連絡網を <u>整備</u> しておく必要があります。 (下線部を修正)	49	下から 3 行目	⇒熱中症の警戒に至らないためには、熱中症の発症に備えて、作業所で緊急連絡網を整備するなど、重篤化を防止するために必要な措置の内容や実施手順をあらかじめ定め、作業員に対して周知しておく必要があります。

(旧版) 第4版(令和6年6月14日) No.235620			(新牌	反) 第5点	仮(令和7年4月30日) No. 236520
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
51	表3-2 緊急時連 絡表の例	表3-2 緊急時連絡表の例 緊急時連絡表 震響 震響 震響 震響 震響 震響 震響 震響 震響 震	51	図3-3 ポスター による作業 周知	************************************
51	下から	設現場における熱中症発生時の救急処置に	52	上から	建設現場における熱中症発生時の救急処置
	8 行目	ついて、 <u>図3-3</u> に示すとおりです。 (下線部を修正)		3 行目	について、 <u>図3-4</u> に示すとおりです。
52	図3-3 熱中症の救急場でのことでは、	(赤・枠・を修正) 株・康を凝う症状 ※熱・中庭を凝う症状 ※ 株・中庭を凝う症状 ※ 株・中庭を凝う症状 ※ 大・カー 2 を参照すること。 (有)	52	図3-4 熱 お 対 急 対 急 対 急	無中産が魅われる症状例 「無実を受け、失粋、大島の発・生あくび、失神、大島の発・生あくび、失神、大島の高・生あくび、失神、大島の海・生あくび、失神、大島の海・佐藤の上の (こじら返り)、頭痛・高肉の硬産(こじら返り)、頭痛・高肉の硬産(こじら返り)、頭痛・高肉の硬産(こじら返り)、頭痛・石快感・高体温・等 (全球・一人にしない、(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は常に連絡・(国教作家の場合は第二日) (日本教作を制度を開発・大島の場合に適じて教命制を実践すること (日本教作を関係を表現する。 (日本教・中国教学を展開するまた、専門教学の展示を同ぐことも考えられる) (日本教・中国教学を展開するまた、専門教学を展開するまた、専門教学を展開するまた。専門教学を展開するまた。専門教学を展開して記述、専門等の展示を同ぐことも考えられる) (日本教・中国教学を展開するまた。 (日本教・中国教学を展開している。 (日本教学を展開している。 (日本教学を展明している。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を表現される。 (日本教学を展明を発展を表現される。 (日本教学を展明を表現を発展を表現される。 (日本教学を発展を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を
53	下から 1 行目	なお、熱中症の症状別救急処置については、 表3-3に示すとおりです。 (下線部を修正)	53	下から 1 行目	なお、熱中症の症状別救急処置については、 表3-2に示すとおりです。
54	表3-3 熱中症の 症状別救 急処置	表3-3 熱中症の症状別救急処置 (下線部を修正)	54	表3-2 熱中症の 症状別救 急処置	表3-2 熱中症の症状別救急処置

(旧版) 第4版(令和6年6月14日) No.235620			(新版) 第5版(令和7年4月30日) No. 236520		
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
57	イラスト	(赤枠を修正)	57	イラスト	
58	イラスト	(赤枠を修正)	58	イラスト	
60	イラスト	(赤枠を修正)	60	イラスト	
61	イラスト	(赤枠を修正)	61	イラスト	

(旧版) 第 4 版(令和 6 年 6 月 14 日) No.235620			(新版) 第 5 版(令和 7 年 4 月 30 日) No. 236520		
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
62	イラスト	(赤枠を修正)	62	イラスト	13 1
63	イラスト	(赤枠を修正)	63	イラスト	
64	イラスト	(赤枠を修正)	64	イラスト	
		1937/65 1937/65			P3755
65	イラスト	(赤枠を修正)	65	イラスト	
		イメージ図 作業を中止した付近 約 700m (海鉄管延長) 約 1000m (50°C) (50°C) (50°C) (50°C) (50°C) (35.2°C) 場会を感じ始めた付近			イメージ図 作業を中止した付近 第700m (海鉄管延長) 約 1000m (50°C) (50°C) (50°C) (50°C) (50°C) (50°C) (35.2°C) 暑さを感じ始めた付近

(旧)	(旧版) 第4版(令和6年6月14日) No.235620			反) 第5点	反(令和7年4月30日) No. 236520
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
66	イラスト	(赤枠を修正)	66	イラスト	
67	イラスト	(赤枠を修正)	67	イラスト	

(旧)	(旧版) 第4版(令和6年6月14日) No.235620			(新版) 第5版(令和7年4月30日) No. 236520		
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容	
75	下から	(右記を追加)	75	上から	(熱中症を生ずるおそれのある作業)	
	12 行目			23 行目	第612条の2 事業者は、暑熱な場所におい	
					て連続して行われる作業等熱中症を生ずる	
					おそれのある作業を行うときは、あらかじ	
					め、当該作業に従事する者が熱中症の自覚	
					症状を有する場合又は当該作業に従事する	
					者に熱中症が生じた疑いがあることを当該	
					作業に従事する他の者が発見した場合にそ	
					の旨の報告をさせる体制を整備し、当該作	
					業に従事する者に対し、当該体制を周知さ	
					せなければならない。	
					2 事業者は、暑熱な場所において連続して	
					行われる作業等熱中症を生ずるおそれのあ	
					る作業を行うときは、あらかじめ、作業場	
					ごとに、当該作業からの離脱、身体の冷却、	
					必要に応じて医師の診察又は処置を受けさ	
					せることその他熱中症の症状の悪化を防止	
					するために必要な措置の内容及びその実施	
					に関する手順を定め、当該作業に従事する	
					者に対し、当該措置の内容及びその実施に	
					関する手順を周知させなければならない。	
					(第612条の2 新設 令和7年6月1日から	
					施行)	
86	参考 2.	(令和7年の実施要綱に差替え)	86	参考 2.		
~			~			
96		参考2.	96		参考 2.	
		令和6年「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」実施変剛 令和6年 2月27日制定			令和7年 [STOP 熱中症 クールワークキャンペーン] 実施変襲 令和7年 2月2 8日新述	
		1 趣旨 夏季を中心に熱中症の発生が相次ぐ中、職場においても例年、熱中症が多数発生してお			1 趣旨 夏季を中心に熱中症の発生が相次ぐ中、職場においても例年、熱中症が多数発生してお	
		り、重原化して原亡に客る事例も後を他たない状況にあることから、業界、事業単ごとに、 無中虚予的対策に取り組んでいるとこのである。昨年までの「STOP 1 熱味 ケールワー クキャンペーン」においても、労働災害防止団体や関係省庁とも連携し、職場における熱 中枢の予格に取り組んできた。			り、こて毎年、順策化して死亡に至る事例が帰職の人別度発生する地盤が終いていること かち、業界、事業型ごとに、熱味で再分割対策に取り組入でいるところである。中年までの ISTOP 熱中度 シールワークキャンペーン」においても、労働災害防止団体や関係衛庁 とも連携、順乗における熱中に切り下降に取り組入できた。	
		昨年1年間の職場における熱中症の発生状況を見ると、死亡を含む休養4日以上の死傷 着1.05人、うち死亡者は28人となっている。業種別にみると、死傷者放こついては、建 設集202件、数数集220件となっており、全体の料っ割がこれら2つの業種で発生している。			昨年 年間の職場における熱中症の発生状況を見ると、死亡を含む核薬 4 日以上の疾信 者1,195 人、うち死亡者は30人となっている。業種例にみると、死傷者数については、雄 股薬 216年、数塩薬227 作となっており、全体の約4 割がこれら 2つの業績で発生して	
		また、死亡者故は、建設款が始らをく、知道集、開催業以び農業が開放で被き、多くの事 所で場合物とが別じた。を開始せ、新心中で初のための労働性生育の支援を問題出れな かった。また、糖原は、進血圧症とど参中位の発症と影響を及ばすませれのある疾吸を有 している事物も見れた、その多くは防御のの見及者はまるた場合がなるでは、なかった。			いる。また、死亡者数は、建設策、製造業及び無送業の販企多く、多くの事所で報告指数 (WBGT) を把握せず、熱性空の気を動き、発傷等の問題が、製物のり速差・機関の実施を確認出来な かった。また、観察紙、高血圧症など終中症の形症に影響を反ぼすおそれのある疾病を有 している事所もあたり、医師等の歴史指書えた危難がなされていなかった事所もあった。	
		このため、本キャンペーンを選じ、すべての範疇において、「職場における勢中庄子坊 基本共復襲職」の有の当年 4月20日付きが最初を402の3 号)とは近く活本が収集が開始上行的対 策を削するよう広、中がかけるとともに、期間中、事業者はり着き商佐(WGCT)の担難と その頃に広じた場所は学が対策を実施するとと、60千歳を受理する者及び労働者に対して			このため、本キャンペーンを思し、すべての職能において、[職職におりる 野中空 予防基 木対策機制、(の対象) 4 月20日付ける対象 2 co2 3 3 9 1 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	
		せい他においたが一体でから対象を失敗すること、おけません様するからなりが動物にありて あらかという時間を対象を行うこと、歯縁取る。高品性など参加性のが軽に影響を及ぼ すおそれのある表現を守ちる指に対して医師等の意見を前まえた配慮をおこなうことなど。 連点的な状態を放走を移る。			見つけ、身体冷却や医療機関への撤送等値切た措置ができるための体制整理等を行うこと、 3輪原棋、高血圧症など熱中症の発症に影響を及ぼすおぞれのある疾病を有する者に対し て医師等の意見を確まえた起連をおこなうことなど、重点的な対策の撤走を図る。	
		7 期間			なお、労働者と同じ場所で作業に従事する労働者以外の者についても、上記機関の対象 に含める。 こさめる。 フ 別同	
		3 主唱 厚定方傳來,中央另鄉以南的止協会、建設集另鄉以南於止協会、陸上貨物運送事業另鄉 吳將的止協会、港灣貨物運逐事第另鄉民市防止協会、林斯 木林鄉道南守鄉吳等防止協会。			今和2 7年5月 1日から 5月30日までとする。 なお、今和7 年4月を単編判明とし、今和7年7月を組成現組判明とする。 3 主唱	
		一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 4 協賛			5 工物 厚生奶酶者,中央奶糖浸药防止協会、建設電力鄉浸药的上協会、陸上貨物運送等電刃搬 災勢的止協会,港灣貨物運送車等別報送到的上協会。 株理・木林製造器力鄉巡河的上協会、 一般計劃及上科水學企業會上型小學之上的。 一般社团人企和警察指数会会	
		公社社团队人日本审庆用品协会、一般社团比人日本审究計劃器工票会 5 後載 (予定) 関格布庁			4 協赞 公設社団法人日本保安明品協会、一較社団法人日本電気計劃部工新会	
		86			5 後親 (予治)	

(旧)	版)第4月	版(令和 6 年 6 月 14 日) No.235620	(新版	反) 第5点	仮(令和7年4月30日) No. 236520
頁	箇所	内 容	頁	箇所	内 容
102	熱中症注	(赤枠を修正)	102	熱中症注	
	意喚起ポスター	防ごう熱中症		意喚起ポスター	